

研修終え大垣市でイチゴ農家として出発

田部さんに担い手証書

岐阜市内での研修を終え、大垣市神明でイチゴの生産を始めた田部恵さん(42)に27日、営農への激励の思いを込めた県の「清流の国ぎふ農業担い手証書」が贈られた。県西濃農林事務所(同市江崎町)で交付式があり、田部さんは「立派な証書に負けないように早く自立したい」と話していた。

(原田大介)

県西濃農林事務所贈る



清流の国ぎふ農業担い手証書を受け取る田部恵さん
|| 大垣市江崎町、県西濃農林事務所

農家育成や確保のため県が進める「新・担い手育成プロジェクト」では、2025年までに2200人の新たな担い手育成を目指す。証書は、県が認める就農研修を終えた人に対して、士気を高めてもらうために交付している。

田部さんは昨年4月から今年5月まで、全国農業協同組合連合会県本部(JA全農岐阜)のいちご新規就農者研修所でイチゴ栽培などを学んだ。6月からは、自宅近くの約15アールの農場で品種「美濃娘」の生産を始めている。

交付式では同事務所の山田幸樹所長が証書を手渡し、「県の支援を活用してもらい、経営安定化を目指してほしい」と激励。田部さんは「甘さを楽しめるイチゴを作りたい」と意気込みを話していた。